

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	大正区
学校名	三軒家東小学校
学校長名	山田 智博

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 62名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率については、国語では、3.3ポイント全国平均より上回った。しかし、算数では、2.4ポイント下回った。また、無回答率については、国語では、2.6ポイント、算数では、1.4ポイント全国平均より低かった。学習指導要領の内容で見ると、国語では「話すこと・聞くこと」では下回っているが、他の5つの内容においては上回っている。算数では、すべて下回っている。国語、算数において、習熟度別少人数指導を実施し、個に応じた指導を続けてきたことで、国語においては取り組んできた成果は表ってきたが、算数においてはまだ成果は表れていない。ただ、無回答率は全国平均より低く、粘り強く最後まで問題に取り組んだ様子がうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 「情報の扱い方」が7.6ポイント、「読むこと」が4.5ポイント、「我が国の言語文化」が3.6ポイント、「言葉の特徴や使い方」が3.3ポイント、「書くこと」が2.5ポイント全国平均より上回った。しかし、「話すこと・聞くこと」は、1.1ポイント下回った。国語に関しては、習熟度別少人数学習において、少人数で下位層の児童に個に応じた指導を行ってきた成果が表れている。

[算数] 「データの活用」で4.5ポイント、「図形」で3.1ポイント、「変化と関係」で1.9ポイント、「数と計算」で0.5ポイント下回った。週3回行っている「計算タイム」の成果が表れ、「数と計算」は全国平均まであとわずかに迫っているが、「データの活用」「図形」などが低かったので授業においてもICTの活用などによりさらに取り組んでいきたい。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」については肯定的に答えている児童は、大阪市や全国平均より下回っており、自己肯定感がやや低い傾向にある。「いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか」については、最も肯定的に答えている児童が、大阪市や全国平均より圧倒的に上回っており、組織的ないじめに対する取組の成果が表れている。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「友達関係に満足していますか」についてはどちらも大阪市や全国平均より上回っており、先生や友達との関係が良く、学校生活において良好な人間関係が築けていることが伺える。

今後の取組(アクションプラン)

本校は、4年間の国語科の研究の後、「総合的な学習の時間」の研究に取り組み、文章や参考資料を「読み取る力」や学習したことを発表する場面から「豊かに表現する力」の育成に取り組んできた。さらに今年度は、「話し合う力」に焦点を当て、学級活動の話合い活動を通して、「自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりする」力の育成をめざして研究を進めていく。これらの積み重ねにより、学び合いのある授業に取り組み子ども達の協働的な学びを推進していく。また、そのために日常使いのICTの活用も進めていき、協働学習支援ツールなどで授業形態の幅を広げながら、教員の授業力向上をめざして授業実践に取り組む。そして、誰一人取り残さない学力の向上に努め、きめ細かい連携のもと、習熟度別少人数学習も継続し下位層の児童の学力保障にも力を入れていく。

【 全体の概要 】

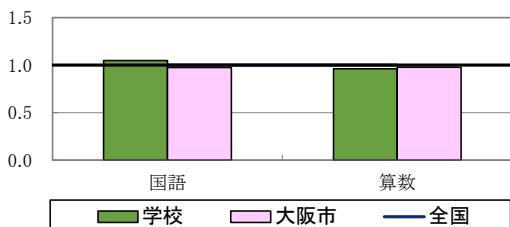
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	71	61
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

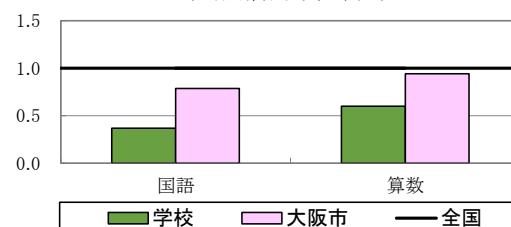
平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.6	2.0
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



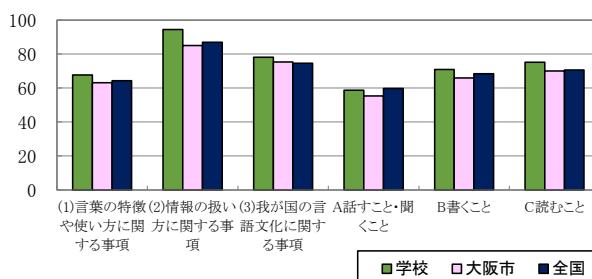
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	67.7	63.1	64.4
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	94.5	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	78.2	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	58.8	55.3	59.8
B 書くこと	2	70.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	75.2	70.1	70.7

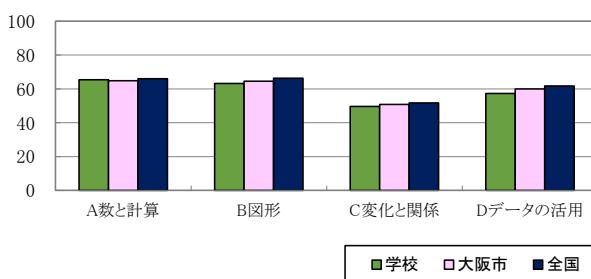
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	65.5	64.8	66.0
B 図形	4	63.2	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	49.7	50.8	51.7
D データの活用	4	57.3	60.0	61.8

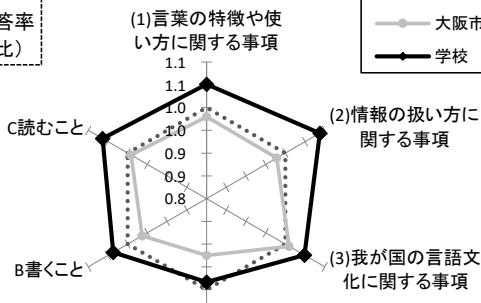
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



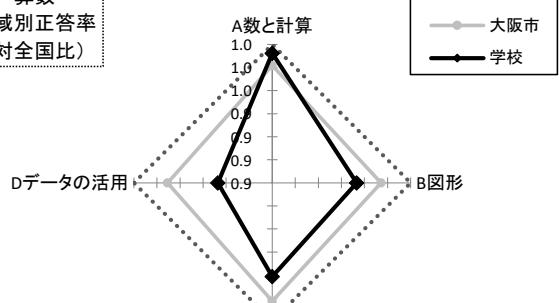
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



I
A話すこと・聞くこと

变化と関係